資料－２

第　３　回

宇治市歴史的風致維持向上計画検討委員会

検　討　資　料

平成 22 年 10 月 19 日

【資料目次】

１．宇治市歴史的風致維持向上計画　目次案　……　1

２．宇治市の維持向上すべき歴史的風致について　……　2

３．歴史的風致の維持及び向上に関する意義と基本方針について　……　11

１　宇治市歴史的風致維持向上計画　目次案

第１章　宇治市の歴史的風致形成の背景
１．自然と風土
２．歴史の変遷
３．文化財等の分布状況
３－１　国指定・選定文化財等の分布状況
３－２　府・市指定文化財等の分布状況

第２章　宇治市の維持向上すべき歴史的風致
１．宇治市の全体像
２．宇治市の維持向上すべき歴史的風致
２－１　祈りと行楽の空間、宇治川にみる歴史的風致
①　宇治川両岸の社寺参詣
②　宇治川の遊興
２－２　お茶のまち宇治にみる歴史的風致
①　宇治のお茶づくり
②　宇治茶を支えるまち
２－３　暮らしに息づく祭礼行事にみる歴史的風致
①　大幣神事
②　宇治神社の神幸祭と還幸祭（離宮祭）

第３章　歴史的風致の維持及び向上に関する意義と基本方針
１．歴史的風致の維持及び向上の意義
２．歴史的風致の維持及び向上に関する課題
３．歴史的風致の維持及び向上に関する基本方針

第４章　重点区域の位置及び区域
１．重点区域設定の考え方
２．重点区域の位置及び区域
３．重点区域の歴史的風致の維持及び向上の効果

第５章　良好な景観の形成に関する施策との連携
１．重点区域における都市計画の活用
２．重点区域における景観計画の活用
３．重点区域における市独自条例の運用

第６章　宇治の歴史的風致の維持及び向上のために必要な事項
１．文化財の保存及び活用に関する事項
１－１　市域全体に関する事項
１－２　重点区域に関する事項
２．歴史的風致維持向上施設の整備又は管理に関する事項

第７章　歴史的風致形成建造物の指定の方針

第８章　歴史的風致形成建造物の管理の指針となるべき事項

第３回委員会の主な検討範囲

２．宇治市の維持向上すべき歴史的風致について

歴史的風致

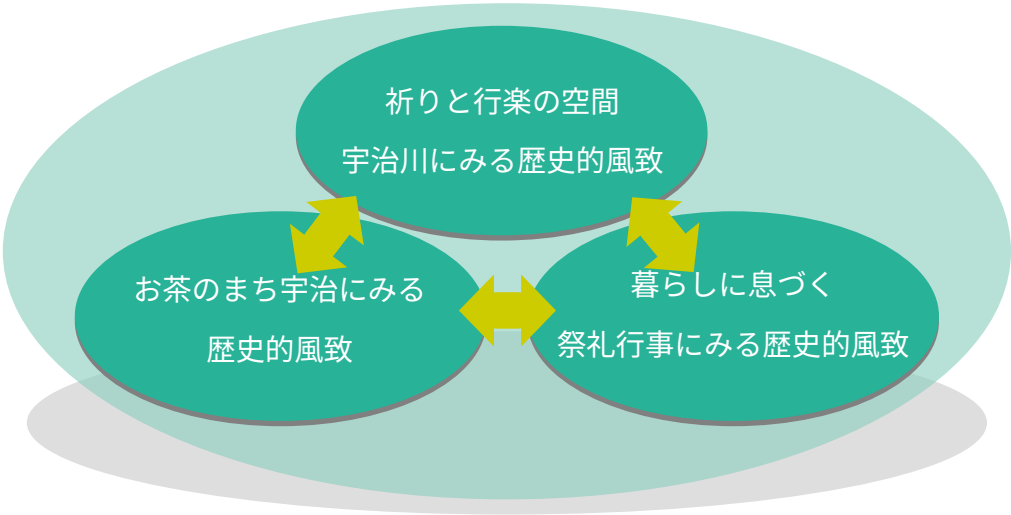
「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地の環境」（歴史まちづくり法　第１条）

→　“風情”、“趣”と言い換える

①　歴史や伝統を反映した活動が、現在、行われているか
②　①の活動が歴史上価値の高い建造物で行われているか
③　①の活動と②の建造物が一体となって良好な市街地の環境を形成しているか
１つでも満たさない場合には、歴史的風致は設定できない。

（「歴史まちづくり法ハンドブック」抜粋）

１．宇治市の全体像



○　山紫水明の宇治川の自然美は古より人々を惹きつけ、今に残る平安時代の権力者である藤原氏の造営した社寺は、王朝貴族の信仰と感性が生み出した優れた文化遺産である。宇治川周辺は社寺を参詣する人や散策する人でにぎわい、宇治独特の趣きのある風景をつくり出している。

○　鎌倉時代に始まった宇治の茶業は、宇治独特の栽培・製法・調合技術によって品質を高めてきた。宇治茶はその時々の天下人に献上されて、高級茶の代名詞として全国に知られている。宇治のまちの各所には、伝統的な茶業のシステムとともに、茶業がもたらした茶文化や伝統的祭礼が、市民の支えによって今なお継承されている。

○　宇治の中心部は、平安貴族の別業として都市的な発展を遂げた場所であり、中世以降は伝統的な茶業の中核をなした場所である。ここには、古代と中世が融合する都市構

造が継承されていると同時に、古代あるいは中世に起源をうかがわせるような祭礼行事も行われている。

○　このように、宇治市の維持向上すべき歴史的風致とは、宇治の自然風土と、奥行きと深みのある歴史過程の中から生み出された歴史的建造物や歴史的街区等を核として、宇治川沿いの参詣や遊覧、茶業や祭礼行事などといった、伝統的な諸活動の行われる良好な市街地の環境である。

２．宇治市の維持向上すべき歴史的風致

２－１　祈りと行楽の空間、宇治川周辺にみる歴史的風致

①宇治川両岸の社寺参詣

今なお宇治に住む人々だけでなく多くの観光客が、山紫水明の宇治川とその後背地に広がる山々の自然美と、両岸の社寺仏閣の厳かな宗教性が一体となった宇治独特の雰囲気に惹きつけられ、歴史的観光地の風情を味わっている。

歴史的な建造物・街並み・遺跡	歴史・伝統を反映した活動・行為
○平等院鳳凰堂（国宝） ○平等院庭園（史跡及び名勝） ○宇治上神社本殿・拝殿（国宝） ○宇治神社本殿（重要文化財） ○宇治川太閤堤跡（史跡）　　ほか	○社寺参詣 ○花見・散策 ○宇治十帖古跡めぐり

イメージ　～宇治橋上流両岸の社寺を参詣し、四季の移ろいを楽しみつつ散策する。

②宇治川の遊興

江戸時代後期以降、社寺詣と宇治川遊覧が活況を呈するようになり、様々な風物を満喫する独特の空間が生み出され、現在も一年を通して賑わいを見せている。そして宇治のまちには旅館や飲食店舗が、宇治らしいおもてなしの場として軒を連ねる。

歴史的な建造物・街並み・遺跡	歴史・伝統を反映した活動・行為
○十三重塔（重要文化財）を含む塔の島一帯 ○宇治川太閤堤跡（史跡） ○通円茶屋 ○旧菊屋万碧楼 ○花やしき浮舟園木造建物 （重要文化的景観の構成要素）	○飲食 ○喫茶あるいは茶香服 ○茶会 ○舟遊び・鵜飼 ○魚釣り

イメージ　～宇治川一帯に育まれたさまざまな風物を楽しむ。

２－２　お茶のまち宇治にみる歴史的風致

①宇治のお茶づくり

お茶の生産（茶畑）、加工（製茶場）、販売（茶問屋）が都市域に溶け込み、近年は宇治観光の土産として小売店が軒を連ね、お茶の香り漂う商店街がお茶のまちとしての風情を醸し出している。

歴史的な建造物・街並み・遺跡	歴史・伝統を反映した活動・行為
○宇治の市街地を構成する茶畑と茶生産農家の製茶場を備える建物（重要文化的景観の構成要素） ○茶問屋・茶商の伝統的家屋と、茶業関係者が集まる宇治橋通り商店街、平等院表参道商店会、源氏タウン銘店街（重要文化的景観の構成要素）	○覆下栽培（特にほんず）と手摘みによる伝統的な栽培技術 ○手もみによる加工技術 ○合組加工（ブレンド）、販売・流通

イメージ　～新茶の季節の活気ある茶農家の風情（覆下園と茶摘みと茶工場）

イメージ　～お茶の香る茶店のたたずまい

②　宇治茶を支えたまち

宇治の人々は日常的に宇治茶を消費している。子供たちは小学校の蛇口から出るお茶を毎日飲み、大人たちはお客が来たときにはお茶を振舞ってきた。

ハレの日として宇治には、お茶に関する様々な祭礼行事が古くから行われている。新茶の収穫をねぎらい、忙しい時期にひと区切りを告げる初夏の風物として、あるいは功労者への感謝と今後の隆盛を願う行事として、市民や茶業に関わる人たちが大切に継承してきたものである。お茶への畏敬と感謝の気持ちをあらわす様子は、お茶のまちとしての宇治独特の風情を醸し出している。

歴史的な建造物・街並み・遺跡	歴史・伝統を反映した活動・行為
○興聖寺（京都府文化財環境保全地区） ○旧京都府茶業会館（重要文化的景観の構成要素）	○宇治茶まつり（栄西・明恵・利休の三恩人への報恩感謝）
○宇治上神社本殿・拝殿（国宝） ○宇治神社本殿（重要文化財） ○萬福寺（重要文化財）　　ほか	○献茶祭（新茶の収穫を感謝するもの）
○本町通り・宇治橋通り・県通りで形成される三角形街区	○あがた祭り（縣神社のお祭で「闇夜の奇祭」とも呼ばれる。新茶の収穫と農業従事者への労をねぎらうもの）

イメージ　～宇治の人々は、茶業がもたらした恩恵に感謝し、先人たちへの畏敬の気持ちを、四季折々の祭礼行事にあらわしている。

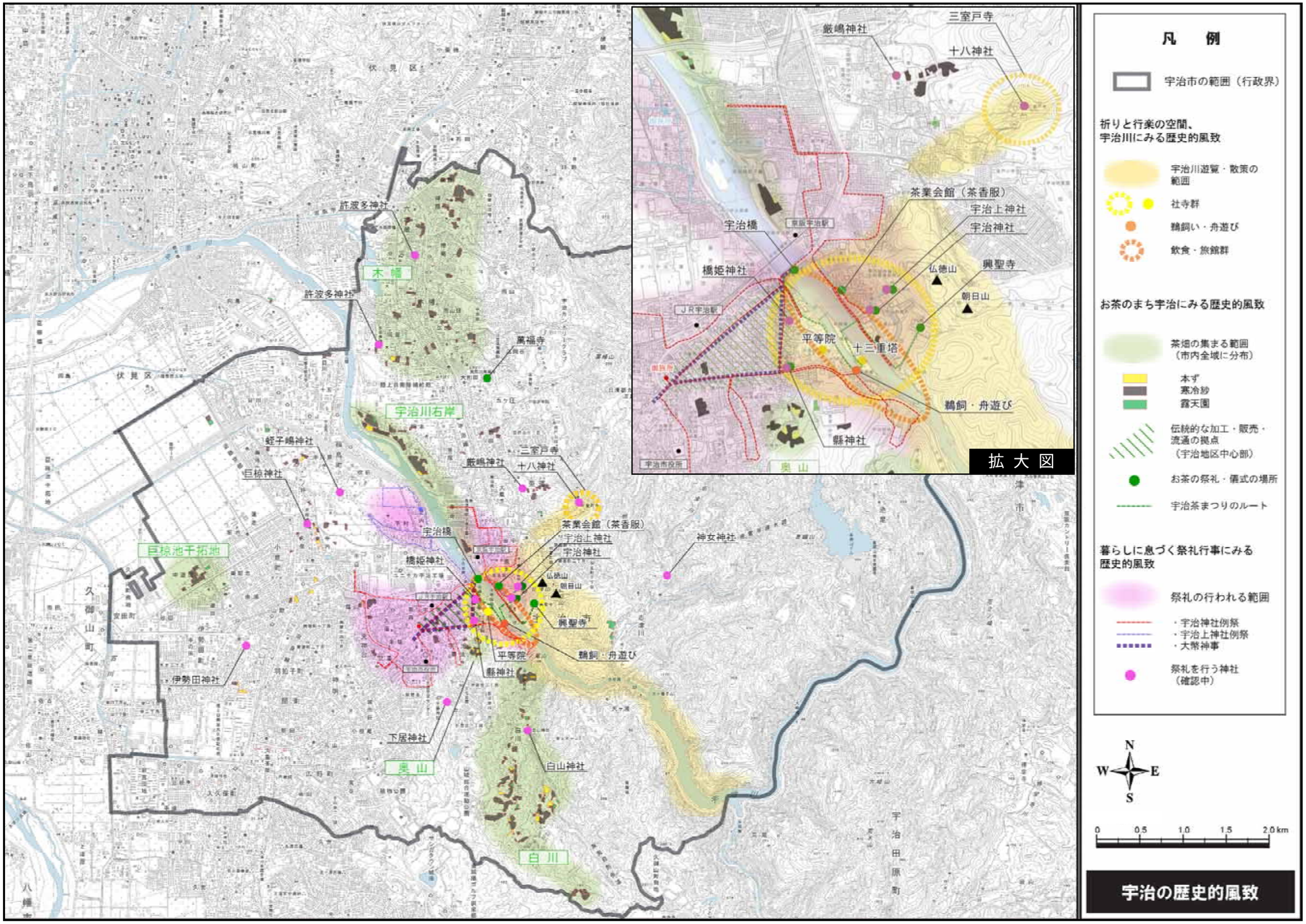
２－３　暮らしに息づく祭礼行事にみる歴史的風致

宇治の中心部、古代と中世の融合する歴史的街区を舞台にした祭礼行事は、初夏らしい季節の彩を背景に感じながら、祭礼を担う者と観覧する者が一体となり、はれやかで高揚した雰囲気に包まれる。祭礼行事が地域に支えられてしっかりと根付いており、平安時代から続く歴史あるまち宇治の風物詩となっている。

歴史的な建造物・街並み・遺跡	歴史・伝統を反映した活動・行為
○三角形街区 （古代と中世の融合したまちの基本骨格と、伝統的家屋が良好に残る市街地） ○宇治神社本殿（重要文化財）	○大幣神事 （疫病を追い払い宇治郷の安穏無事を願って行われる神事。旧宇治郷の有志が組織する大幣座が神事を運営する。） ○宇治神社の神幸祭と還幸祭 （平安時代の離宮祭に由来を持ち、御輿とともに旧宇治郷全体を練り歩く。平安時代の藤原氏との関係を強く示す祭礼）

イメージ　～歴史的な街区の中で、長く宇治の人々が支えてきた、一年の平穏無事を願って行われる祭礼行事

参考図①：　宇治市域における歴史的風致の分布状況



参考図②：　宇治の歴史的変遷過程と歴史的風致形成の関係

歴史的風致形成の背景

時期区分	世紀	年代	和暦	主な出来事
古代	～8c	5世紀前半		・菟道稚郎子、宇治に離宮造営
		5世紀中期		・宇治地方は大和統一国家の直属地となり、宇治県・栗隈県などが成立する
		5世紀後半		・宇治川東部古墳群が造りはじめられた（二子山古墳など）
		646	大化2	・大化改新の詔。元興寺僧道登、宇治橋架橋
		710	和銅3	・平城遷都
		790	延暦9	・白川に白山社が勧請されたという〈尾崎坊家文書〉
		794	延暦13	・平安遷都。山背国が山城国と改称
	9c	814	弘仁5	・嵯峨天皇が栗前野に遊猟し、明日香親王の宇治別業に行幸した
		891	寛平3	・藤原基経が死去し、木幡に埋葬される。以後、同地に摂関家の者が多く葬られる
	10c	998	長徳4	・この頃、藤原道長が源重信から宇治院の地を買った
	11c	11世紀	初	・紫式部、源氏物語執筆
		1048	永承3	・宇治・柱の鵜飼人が藤原頼通の高野山参詣に随行した
		1052	永承7	・頼通、宇治別業を平等院とする。
	12c	1102	康和4	・白川金色院が落慶し、法要が営まれたと伝う
		1133	長承2	・宇治離宮祭の名の初見
		1153	仁平3	・宇治白川の法師原による田楽座が盛んに活動した
		1184	寿永3	・宇治川の合戦。源義経が木曽義仲の軍を破る
		1191	建久2	・栄西、宋から茶種を持ち帰る
中世	13c	1221	承久3	・北条泰時の軍が後鳥羽上皇の兵を宇治川に破る（承久の乱）
		13世紀	前半	・明恵が宇治に茶を伝播する
		1286	弘安9	・叡尊が宇治橋を再興し、浮島十三重石塔を建立した
	14c	1336	建武3	・楠木正成が足利尊氏の軍と戦い宇治の町を焼いた。室町幕府成立
		1356	延文元	・宇治川の洪水により宇治橋・浮島石塔損壊、槇島の大半が流失した
		1374	応安7	・豊原信秋が覚王院僧正に「宇治茶」を進上する（宇治茶の初見）〈信秋記〉
		1391	明徳2	・足利義満が、山名氏清の宇治別業を訪れた
	15c	15世紀	前半	・この頃、伏見・槇島・笠取・畑郷・伏見・炭山などの間に、しばしば争論がおこった
		1467	応仁元	・応仁の乱
		1483	文明15	・畠山義就方の斉藤彦次郎が、宇治に放火し、市街の大半を焼いた
		1485	文明17	・山城の国一揆（翌年、平等院にて集会）
	16c	1500	明応9	・途絶えていた京都祇園会の山鉾巡行が復興
		1573	天正元	・織田信長が、足利義昭の拠った槇島城を攻略し、室町幕府が滅亡
		1591	天正17	・秀吉が、伊達政宗らと宇治の茶摘を見物
		1592	天正18	・伏見城築城開始
		1593	天正19	・宇治川改修（太閤堤）
				河道変化は町の発展に影響
近世	17c	1633	寛永10	・幕府お茶壺道中を確立
		1636	寛永13	・宇治橋の新造架橋の際、三の間が作られる
		1648	慶安元	・淀城主永井尚政が興聖寺を再興する
		1661	寛文元	・隠元が黄檗山萬福寺を開山
		1697	元禄10	・宇治の風俗・伝説・地誌を記した『兎道旧記浜千鳥』（三橋守際）が著される
		1698	元禄11	・宇治郷に大火、茶園10町・家屋550余戸が焼け、平等院大門・鐘楼など類焼した
	18c	1738	元文3	・湯屋谷の永谷宗円が、宇治製煎茶の製法を発明した
		1762	宝暦12	・県神社が神札発行
		1771	明和8	・伊勢御蔭詣りが五ケ庄から起こり、諸国に大流行する
		1780	安永9	・『都名所絵図』（秋里籬島）宇治の情景
	19c	1812	文化9	・幕府が、宇治茶の買上げ量を20%減らした
		1824	文政7	・宇治郷が茶園害虫の虫除け祈祷を宇治離宮社にて行う
		1833	天保4	・宇治郷騒動
		1835	天保6	・この頃、市内の各地で玉露が創製された
		1863	文久3	・『宇治川両岸一覧』が刊行
近代	19c	1871	明治4	・京都府が茶業者に輸出用の茶製造を命じた
		1881	明治14	・宇治郷の中心部を宇治町と改称
		1896	明治29	・奈良鉄道、宇治停車場設置
	20c	1906	明治39	・巨椋池と宇治川の分離（大正9年まで継続）
		1911	明治44	・南郷・宇治間の宇治川に通船が開始された
		1913	大正2	・宇治川水力発電所建設
		1926	大正15	・日本レイヨン工場建設
		1928	昭和3	・奈良電鉄（現近鉄京都線）が開通した
		1932	昭和7	・全国茶業記念日が制定され、第1回茶まつりが行なわれた
		1941	昭和16	・巨椋池干拓
		1951	昭和26	・宇治市誕生。平等院鳳凰堂国宝指定
		1964	昭和39	・天ケ瀬ダム建設
		1994	平成6	・世界遺産登録
	21c	2008	平成20	・宇治の文化的景観の国選定
		2009	平成21	・太閤堤史跡指定

都市形成

古代交通の要衝 → 貴族別業の地 → 茶業の発展 → 御用茶師の町 → 工場建設と観光化 → 農地の宅地化

宇治川を挟んで集落が発展

- 都造営のための木材輸送の中継地
- 山野での遊猟
- 木幡山稜への参詣
- 京都と奈良の中間地点
- 宇治川渡河点
- 別業の造営

→ 左岸部の都市の発達　邸宅群と街路の形成

数度の戦火・洪水など

→ 中世都市への再編　町屋群の形成と短冊形地割

→ 特権的商人の邸宅の並ぶ宇治橋通りが主軸に

茶畑と町家の混在

宇治郷の人口減少　郷民の困窮

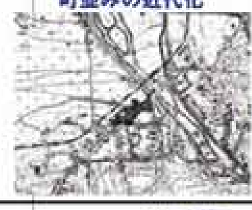
1690年/5276人 → 1772年/2634人 → 1816年/1632人

鉄道網の発達

1935 宇治町都市計画法適用

近代観光都市

町並みの近代化



住宅地拡大

維持向上すべき宇治の歴史的風致

祈りと行楽の空間・宇治川

- 菟道稚郎子墓
- 870三室戸寺創建（光仁天皇勅願寺）
- 927宇治離宮社
- 1053平等院鳳凰堂建立
- 1099三室戸寺伽藍修造
- 花山法皇の観音巡礼
- 舟遊び・詩歌会・遊宴
- 一切経会・放生会
- 湯治
- 宇治川網代・鵜飼舟・紅葉見学
- 離宮祭・蛍火見学
- 1286浮島十三重石塔
- 1482頃 たびたび「宇治丸」が調進される
- 宇治川遊覧・漁撈
- 舟遊び
- 1460宇治蛍狩の初見〈碧山日録〉
- 宇治が京都とともに名所図に掲載され始める
- 風光明媚な観光名所として全国的に知られる
- 江戸中期から末期 観音巡礼（西国三十三箇所）の庶民層に流行
- 料亭・茶屋の賑わい
- 1904 宇治保勝会設立
- 1916 宇治郡史蹟保存会
- 1926 宇治川の観光鵜飼開始
- 1928 宇治川沿岸に桜・楓植樹
- 1933 1957 数万匹の蛍を放つ
- 風致保全と観光振興
- 1937 万福寺三室戸付近の風致地区指定
- 景観重点区域

お茶のまち宇治

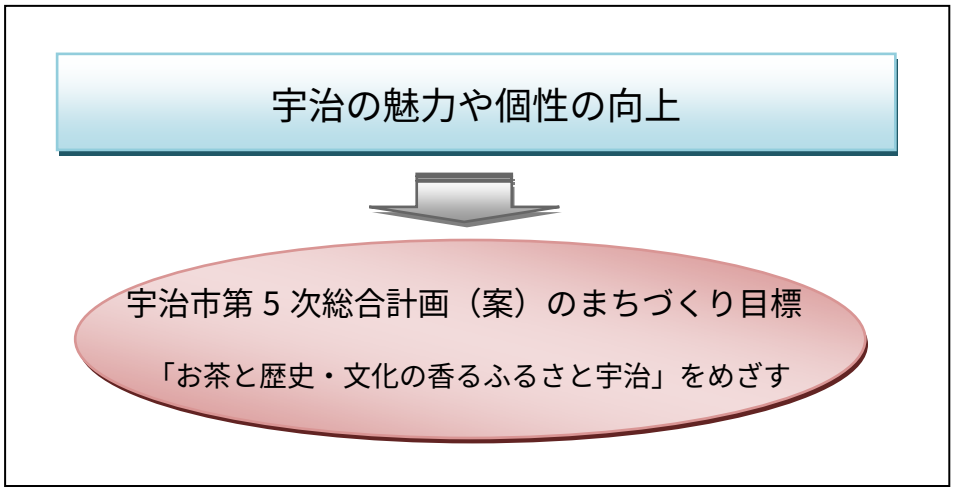
- 宇治茶の始まり
- 七名園　高級茶としての名声高まる
- 覆下栽培始まる
- 茶摘・製茶場見学
- 1587北野大茶会にて上林の茶「極上」を用いる
- 朝日焼
- 茶文化の形成
- 闘茶、茶寄合→侘茶（村田珠光→武野紹鴎）→茶道（千利休）
- 宇治茶師の独占的製造販売
- 玉露の開発
- 煎茶道
- （黄檗）開祖隠元→中興売茶翁
- 荒地茶園の再開発
- 朝日焼再興
- 近代茶業への転換
- 茶園減少
- 1932 茶祭はじまる
- 1949 茶祭の復活
- 1972 茶摘み歌の保存
- 1976 茶祭で時代行列はじまる

暮らしに息づく祭礼行事

- 1110宇治離宮祭〈殿暦〉
- 離宮祭の盛行
- 1277 白山神社拝殿（重文）
- 宇治猿楽の活躍（大和など各地）
- 1322宇治と大和の猿楽座が抗争
- 1340 中断していた祭の復活
- 大幣神事（中世後期の郷民の祭り）
- 合同祭としての規模を強める 離宮祭
- 1696宇治郷全体が下社の氏子圏となる
- 1750 1780 大幣神事が再興
- 1868 神仏分離令
- 大幣神事（県神社）
- 神幸祭・還幸祭（宇治神社）
- 1895 県祭が古式に服す
- 宇治田楽の創作・復興

３．歴史的風致の維持及び向上に関する意義と基本方針について

１．歴史的風致の維持及び向上の意義



現在に生きる我々の使命は、宇治川による恵まれた自然、平安時代から受け継がれてきた歴史・文化資源、宇治茶に代表される伝統文化といった独特の個性であり魅力を守り育て、未来へと引き継いでいくことである。

そして、これら宇治の魅力を向上させることが、暮らす人々のまちへの誇りと愛着を育み、未来にわたり人々を惹きつけ来訪者が集うまちとして活き続けることになる。

２．歴史的風致の維持及び向上の課題

● 情報発信に関する課題

・宇治には恵まれた自然や歴史・文化資源をはじめ、宇治茶や地域に根ざした文化や伝統があり、これらの価値や歴史的背景について、広く市民や来訪者に伝わっていない。

● お茶や地域の伝統文化の継承に関する課題

・宇治茶には様々な文化が継承されてきたが、20 年前と比較すると茶畑面積が大きく減少しており（近年は横ばい）、また茶農家の高齢化も進んでいる。

・新規の居住者の増加や生活様式の変化から、自治会・町内会役員のなり手不足や地域コミュニティ意識の希薄化が見受けられる。また伝統行事の熟練者の高齢化などにより、地域

の伝統行事が簡素化することや、なくなることが危惧される。

● 歴史・文化資源に関する課題

・宇治市には指定・未指定に関わらず多くの文化財が存在する。これら価値ある文化財の毀損、滅失が危惧される。
・様々な文化財の十分な活用が図れていない。

● 景観に関する課題

・歴史的風致を構成する景観については保全や充実する必要がある。
・宇治のまちは狭い道を挟んで歴史的建造物が軒を連ねており、広い範囲で防火・準防火地域に指定されているため、軒や壁面の不連続や防火資材により歴史的風致を構成する景観が損なわれることが危惧される。

● 観光振興と交通に関する課題

・宇治の歴史的風致には来訪者の賑わいは不可欠であり、宇治滞在時間が短いことが課題となっている。
・観光シーズンには宇治橋を中心に渋滞が起こり、観光地内の移動手段や安全対策に課題があり、歴史的風致を損なうことがある。

３．歴史的風致の維持及び向上の方針

○ 宇治のまちや宇治茶の歴史・文化をわかりやすく情報発信する。

・古代から現在に至る宇治の歴史の重層性や歴史・文化資源について理解を深めるため、わかりやすく情報発信する。
・宇治茶の歴史や文化とともに、天下人が愛した宇治茶の価値をわかりやすく情報発信する。

○ お茶に関する文化や伝統、地域に根ざした伝統行事の継承と振興を図る。

・お茶の栽培、加工、販売、消費に至るまでの様々な段階において、宇治には独特の文化が刻み込まれており、これらを支える人たちとともに茶文化の継承と更なる発展に努め、宇治茶ブランドの向上を図る。

・地域に根ざした伝統行事は、地域コミュニティを維持する重要な活動であり、地域住民と協働で保存活動を検討し、住民の関心と意識を高めるよう周知に努める。

○ 歴史的風致の形成に関わる多様な歴史的資源について、保存・活用を推進する。

・市内に数多く残された宇治のまちや宇治茶に関する歴史的資源について、地域と連携して保存・活用を推進する。
・史跡宇治川太閤堤跡の整備を行い、保存・活用を推進する。
・「宇治の文化的景観」について住民理解を深め、地域とともに守り育てる。

○ 宇治川沿いの景観保全や、街区の継承、町並み・茶畑景観の保全や修景を図る。

・宇治の景観は近年の様々な景観施策により、市民意識の向上や景観保全、景観誘導を促しており、継続してこの取組を推進する。
・都市計画法や宇治市景観・まちづくり条例による開発指導と、宇治の町並みの景観保全との問題点を明確にし、解決方策を検討する。
・宇治らしい景観修景のため、茶畑景観の保全と充実、道路の美装化、屋外広告物対策に努める。

○ 古くからの観光地としての魅力を継承するとともに更なる魅力を増進する。また観光交通問題の解消に向け、過度なクルマ利用から公共交通への転換と、徒歩による周遊観光を促進する。

・継続的に観光客を誘致していくため、市民参加のもと新たな観光資源の活用を検討し、魅力を高める。
・公共交通の利用促進とあわせて自家用者や観光バスの来訪の観光駐車場対策や、来訪してからの移動手段について、計画的な対応策を検討する。
・新たな観光資源の活用のため、現存する観光サインを検証し再整備に努める。